

福岡における筑前琵琶の 伝承と創造をめぐる基礎的調査

最終更新日：2019年4月26日

【プロジェクト代表者】
音楽教育講座
准教授 山本 百合子

キーワード

伝統音楽 ・ 地域芸能 ・ 琵琶

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

（目的）本プロジェクトでは、福岡を発祥地として、明治後半期から大正期、昭和期前半にかけて地元福岡と東京とに大変な流行をもたらしながら、平成期には伝承者の激減した筑前琵琶の生成と流行の経緯について、地元で未発掘の資料や、演奏技術および楽器制作技術の伝承者への取材を通じて調査し、地域社会の社会活動と密接に関係しながら展開した近世語りもの音楽のひとつである筑前琵琶の実態と今後の伝承の可能性を探ろうとする。

（方法）単年度の本プロジェクトの中では、(1)稀少ながらもいくつか散見できる、筑前琵琶の生成と流行にまつわる先行研究の確認、(2)現在福岡を拠点に実演と伝承そして創作活動に精力的に従事している筑前琵琶奏者寺田蝶美氏へのインタビュー調査と、寺田氏所蔵の昭和期から平成期の福岡における筑前琵琶保存会の諸活動の記録資料の閲覧、(3)東京国立文化財研究所の研究員の協力のもと、技術伝承が途絶える寸前の危機にある琵琶制作修復技術の保護も視野に入れた、福岡市博物館所蔵の琵琶（楽器）の熟覧調査、(4)福岡で唯一筑前琵琶の楽器制作および修復の専門的技術を伝承している技術者へのインタビューとその工房の訪問取材、(5)筑前琵琶保存会が地元福岡の現代の晴れの場で華やかに活動をする博多どんたく参加行事への参加と取材、といった作業により、筑前琵琶の現状と背景の確認に取り組んだ。

（結果と意義）(1)先行研究等から筑前琵琶の発祥から大正期の流行に至る経緯を確認、(2)寺田氏所蔵の記録や氏へのインタビューから昭和期から平成期にかけての福岡における筑前琵琶の展開の様子を詳しく時系列に沿って整理（作業中）、(3)福岡市博物館所蔵の琵琶の種類・形状・来歴の広がりを確認、(4)琵琶制作修復技術者から技術の伝承の現状や課題を確認、(5)現代の福岡に生きる筑前琵琶の芸能活動の実態調査を体験的に実践。以上(1)～(5)の結果（一部は継続中）により、福岡における筑前琵琶の伝承と創造の現状を把握し、これは筑前琵琶文化の継承と地域芸能としての可能性の探求において大きな意義を持つ。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

本研究の成果は、筑前琵琶が福岡の地域社会の文化・経済・政治等と関連した諸活動の中で果たしてきた多様な役割と役割ゆえに、音楽面にどのような特質を表してきたか、どこに音楽的価値が生み出されたかといった、「音楽社会学」的な検証を行うことができる。音楽社会学的な見地からの芸能の検証は、社会の中の音楽表現のあり方について、一例をモデル化できるとも思われる。具体的には、福岡における筑前琵琶とその周辺要素の研究は、地域社会の営みのなかで地域発祥の音楽芸能が果たしてきた役割や効果の顕著かつ稀少な一例として、今後の地域社会における生活や教育のなかで、芸能というものをどう捉えどう生かすのか、といった問題にも迫る足がかりとなると考えている。

地方都市で生まれながら、日本の伝統音楽史全般、特に近代日本音楽史において、注目すべき音楽種目と言える筑前琵琶は、現代においてはだいぶ知名度や理解度が下がっているが、これを着実に伝承しようとする伝承者を支え、その価値を広く周知することが、まずは本研究の果たす大きな役割である。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成30年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

福岡教育大学 准教授 山本 百合子(研究代表者)

筑前琵琶保存会 奏者 寺田 蝶美(研究協力者)

東京国立文化財研究所 研究員 前原 恵美(研究協力者)

琵琶制作修復技術者 ドリアーノ・スリス(研究協力者)